

一寸光陰不可軽

人国記

高卒の初任給が2万円以下だった時代、東洋工業は2万4千円という厚遇でした。東洋工業が自分のよく知っている「マツダ」だとも分かりました。それでもどうも気が進まない。四国の若者は、やはり東京や大阪に目が向いていたんでしょうが、東洋工業は広島。「西へ向かう」ことに抵抗があったと思います。

しかし一応、試験は受けに行きました。朝6時ごろに家を出て、徳島線に乗って土讃線に乗り換え、宇高連絡船船まで海を渡り、宇野線、山陽線、呉線回りの急行で到着は午後7時ごろ。そんな「長旅」でさらに気が重くなり、「就職できなくていいから、さっさと試験を受けて帰ろう」と思っていました。

初日は学科試験。国語、数学、英語、作文など科目はたくさんありました。その夜は、会社が用意した旅館に

お 貴島 孝雄 (62) ⑥

元マツダロードスター主査

宿泊しました。そこへ受験生たちの学校の先輩に当たる東洋工業の社員らが、それぞれの後輩を夕食に誘い出し

後日、私が入社するとその先輩はエンジン設計部門にいたんです。「お、おまえも入ってきたか」と喜んで

に來たんです。徳島東工業高校からの受験は私が初めてだったので、先輩はいませんでした。でも、「あんたは先輩おらんのか」と声をかけてくれる人がおり、一緒に連れて行ってもらいました。

翌朝、学科試験の合格者が正門前に張り出されました。私の番号はありませんが、「もういいかな」と思って公衆電話から先生に「帰りたい」と話したら、先生に「バカなことを言うな。来年からうちに求人が来なくなるから、絶対受けて帰れ」と言われ、しぶしぶ面接試験を受けて帰ったんです。

その後、学校にトヨタや小松製作所などから求人が来る。でも、先生に「東洋工業から結果が来ないうちにあれこれつまみ食いをやっちゃいかん」と言われ、やがて東洋工業から「採用を決定する」という電報が届きました。求人番号が違っていたら、私の人生も大きく変わっていたでしょうね。

それから入社までの間に、社内報が送られてきました。見てみると、「ロータリーエンジンをモーターショーに出品した」なんていう華々しいニュースが載っているんです。その社内報の内容や、試験の時に誘ってもらった先輩の印象などを思い出して、入社直前のころには「いい会社だなあ」と思いを改めていました。



高校生時代の貴島さん。気乗りしないまま入社試験に臨んだ

しぶしぶ受けた入社試験



九州・山口

産経新聞九州山口版は月ぎめ購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でも、ご自宅や会社に配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088
FAX 092(726)2572
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通
5-23-8
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333
FAX 083(923)3334
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは
0120(34)3733
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは
TEL 092(741)2323

広告のご用は
TEL 06(6633)9474